

第一問

(五)	基	点	ア	さ	と	自	(四)	(三)	(二)	(一)		
a	フ	か	さ	れ	視	己	<p>外からどう見えるかを導きだす。鏡像が自己の身体だと認識できるから。群れで育つなかで、他者の身体を捉える見方を自己にも向け、自己の身体が</p>	<p>群れで育つなかで、他者の身体を捉える見方を自己にも向け、自己の身体が</p>	<p>しているため、それをどう捉えてよいかわからず困惑させられるから。</p>	<p>鏡のなかで他者の身体のように映っている像が、自らの身体感覚と緊密に運動</p>	<p>結びつかないため、他者の身体として知覚され、興味を惹く対象となるから。</p>	<p>生後間もない乳児にとって、鏡に映った視覚的な身体像は自らの体性感覚と</p>
探	い	ら	れ	る	覚	の						
索	て	外	て	の	を	身						
b	こ	的	育	で	結	体						
半	そ	に	フ	は	び	イ						
端	形	捉	人	な	フ	メ						
c	成	え	間	く	け	ー						
客	さ	る	が		て	ジ						
頁	れ	と		他	自	は						
	る	い	自	者	己							
	の	う	己	と	を	単						
	だ	鏡	の	共	捉	に						
	と	像	身	存	え	自						
	い	認	体	し	る	ら						
	う	知	を		こ	の						
	こ	の	他	他	と	体						
	と	体	者	者	で	性						
	。験	の	に	形	感	覚						
	に	視	々	成	成	覚						

第二問

(三)	(二)	(一)		
夜が明けるとすぐ日が暮れると感ぜられるほど、この世は無常だということ。	室戸上人が完全に俗世を捨てた境地に至っているように思われたから。	ウ どうしようもなく終わりになりました	イ 見間違いであろうか	ア 驚きあきれるほどみすばらしい様子になっている

第三問

(三)	(二)	(一)		
		d	b	a
<p>漫然と仏道を学ぼうとするのではなく、一歩不乱に集中し努力を積み重ねる必要があるということ。</p>	<p>懐疑的である必要はない。</p>	<p>知らず知らずのうちに</p>	<p>後の時代に名残が残る</p>	<p>大まかに議論してはいけない</p>